

笠間市の友好都市④

～植芝盛平翁 開拓の地から移住、合気道確立へ～

京都府

綾 部 市

綾部市は、京都府のほぼ中央に位置する田園・文化都市。養蚕を地場産業として発展した「グンゼ」発祥の地でもあります。観光スポットとしては、国宝：光明寺二王門、手すき和紙の里：黒谷、安国寺、あやべ温泉などがあります。また、丹波松茸、丹波栗などが特産として有名で、京野菜のみず菜、賀茂なすの栽培も盛んです。

交通では、京都縦貫自動車道と舞鶴若狭自動車道が交差する要衝にあり、府営・市営の工業団地には、精密機械、薬品、食品、運輸関係など計29社が立地しています。また、自然環境にも恵まれていることから、多くの芸術家が移住し、陶芸、和紙、染織などの分野で創造性に富んだ活動を展開しています。

昭和25年にはわが国初の「世界連邦都市宣言」を行い、平成15年、イスラエルとパレスチナの戦争遺児を招き「中東和平プロジェクト」を実施しました。

一方、市街地周辺部では過疎化・高齢化が課題となっており、平成19年4月、全国に先駆けて限界集落の活性化を目指す「水源の里条例」を施行し、集落への定住や特産品開発などを支援しています。描く都市像は、「人・街・里が輝く市民都市・綾部」。「世界平和」「ものづくり」「健康長寿」「笑顔あいさつ」をスローガンに、まちづくりに取り組んでいます。

植芝盛平翁とのかかわり

北海道開拓団として現在の遠軽町に移住していた植芝盛平翁は、大正8年（1919年）10月、父の危篤の知らせを受けて帰郷を決心。その帰途で旅人から病氣回復を祈願してくれるところがあると聞き、現在の綾部市に立ち寄りました。そこで出会った宗教家の説法を受け、自らの生きる力を見出したといわれています。翌大正9年（1920年）には一家で綾部に移住し、「植芝塾」を開設します。大正11年（1922年）ごろからは自らの武術を「合気武道」と呼称し、多くの人々にその武術を教授しました。その後、武術の鍛錬と仕事（農業）は一心同体という「武農一如」のスタイルを確立し、気・心・体の一致による「合気道」を創り上げました。植芝翁の墓は、和歌山県田辺市のほか、綾部市田野町にもあります。

綾部市（あやべし）のデータ

- 面積…………… 347.11 km²
- 人口…………… 37,734人（平成20年6月末現在）
- 世帯数…………… 15,049世帯（平成20年6月末現在）
- 平成20年度一般会計当初予算…139億5,463万円
- 市制施行日…………… 昭和25年8月1日



【市章の由来】

この市章は、綾部市の頭文字A・a（アルファ）を図案化し、綾に組み合わせたもので、平和の象徴であるハト、イカルガの姿も表しています。

